

## ■第1部会 ②

福井県敦賀市 中池見湿地

中池見湿地トラスト代表幹事 笹木智恵子

### 1. 中池見の位置と地理

数万年の時の中で育まれた地史があり、地形がそのまま残っている所である。

[キーワード] 袋状埋積谷 泥炭層

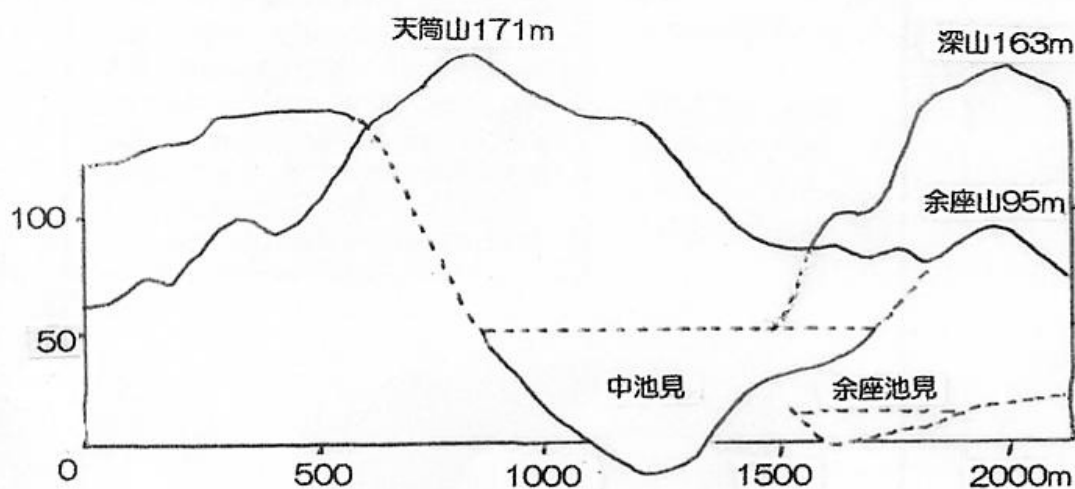
■中池見は敦賀市街地の東側、東部沈降地域といわれる位置に当たり、ここに南北に並んだ同様な地形が三カ所あり、北から内池見、中池見、余座池見と呼ばれている。

中池見はその真ん中の池見（水のあるところ、または湿地帯を表す）という意味である。外池見と呼ばれていた頃もあった。

■湿地面の標高は約50m。まわりを天筒山、中山、深山の三山に囲まれた“隠し田”のよな場所で、広さ約25ha。袋状埋積谷（まいせきこく：元の谷地形が厚い堆積物によって埋められ、現在の地形となったもの）の典型的なものとされている。

大地の構造運動（地殻変動）により西側が沈降したとみられる地形で、そこに泥炭層が形成・堆積、その厚さが約40cmを超えると判明したことから、国際的にも注目されることとなった。

■この泥炭の各層に含まれる花粉や実などから当時の植生が推測されるということから、10万年分の気候変動が記録されているという貴重なものである。また、すり鉢状の地形の最深部は80cmを超えるという超軟弱地盤のところである。



市街地から見た池見(推定断面模式図)

## 2. 歴史

湿地西側に位置する金ヶ崎、天筒山城をめぐる攻防、新田開発の歴史的遺産として現存している敦賀の歴史の証言的地域である。

[キーワード] 天然の堀 新田開発

■戦国時代、織田軍が金ヶ崎城を攻めた時、池見は天然の堀の役割をはたしていたようである。大木などが繁るうっそうたる底なし沼の様相をしていたようで、そのため池見側は安心して“さかもぎ”程度の固めしかせず手薄であったようであり、そこを狙われて落城している。

その時の様子が「朝倉始末記」などに見られる。

■江戸時代、元禄期からこの沼地を開拓して新田を拓くようになったが、深い沼の開墾は大変な苦勞であったようである。地元に残る「こまり唄」に怨嗟の声と共に、その様子がうたい込まれている。

■その時代に伐採した木の根が今も湿地の中、あちらこちらに見られる。昭和25年頃、食料増産を目指して爆破による排除も試みられているが、全部を排除するに至らなかったとのこと。

最近の放射性同位元素測定によると、その伐採された木は約2500年～2000年前のものだと判明している。

今でも美しい年輪を刻んだ、それらの切り株（根木“ネキ”と呼んでいる）が見られ、削ると新鮮な杉の香りが立ちのぼる。その、時を超えた香りには歴史そのものが凝縮されているようで感激の一瞬である。

その多くはアシウスギとのことである。



田んぼの中に残る根木 (1996)

## 3. 生物多様性

多様な水環境に依存して多くの動植物が成育している。いきものたちの賑わいとお互いに関係しながら生きていることを肌で感じるができるエリアである。

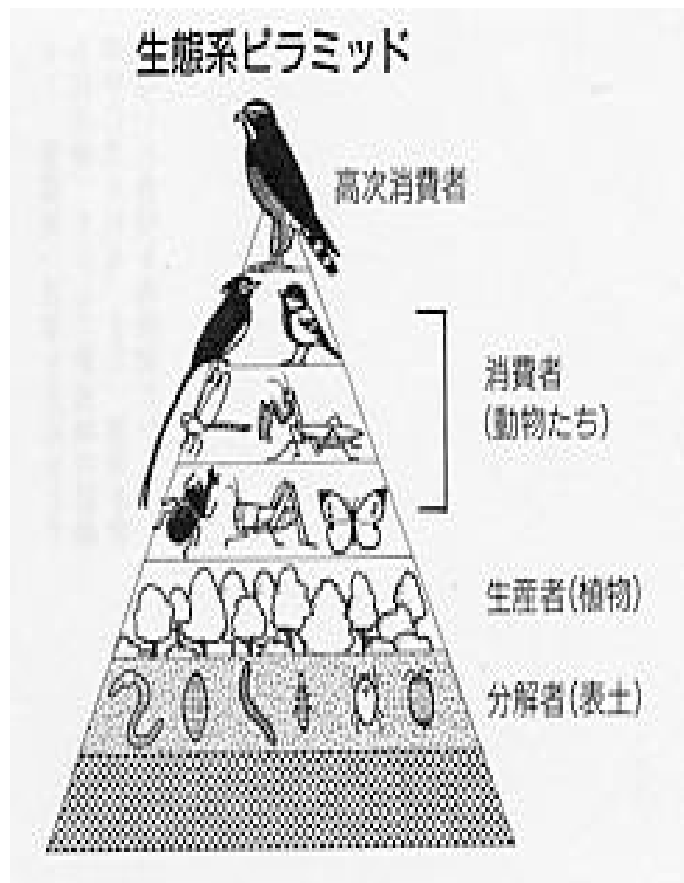
[キーワード] 生物多様性 生態系ピラミッド

■まわりを里山に囲まれた中池見。この湿地の水は雨水と山からの湧き水のみで、流れ込む川は一本もない。しかし、水環境は多様で、それに対応して生物が棲み分けをしている。また、複雑な地形により、光と風、水と緑が異なる環境が形成され、このことが、生物の多様性にもつながっている。

じっくりと観察すると、それら生き物たちの賑わいが見えてくる。

■多様な水環境によるモザイク状の植生が生き物たちに命の場を提供し、微生物から猛禽類まで、健全な生態系ピラミッドが構成されていることも観察される。

■この特徴は、このように生態ピラミッドのどの層の生き物たちも豊富で、出会えることである。特にトンボは今までに70種が確認され、自然の状態での確認種数として全国屈指である。



日本生態系協会「日本を救う最後の選択」より

#### 4. 守るための活動

このような中池見湿地を守るために自然に親しむ活動や各種啓発活動を、そして、トラスト運動がはじまった。

[キーワード] 共有地トラスト 客観的価値評価

■地元の人でさえ知らなかった中池見の存在を「失ってからでは取り返しがつかない」と啓発活動をはじめたのは1990年秋のことである。

この頃、敦賀市が策定していた第四次総合計画では「工業団地造成計画地」として挙げられていたのである。私たちは、計画段階での環境影響評価調査、「計画アセス」の観点で総合学術調査を行うべき地域であると申し入れを続けた。

■しかし、当時の市長は開発を指向で通産省による立地調査結果が思わしくなく、計画頓挫と思われていたところ、1992年に突如、LNG（液化天然ガス）備蓄基地計画が浮上。福井県が斡旋、敦賀市が誘致という形で進行。

96年春に環境影響評価書が承認され、建設へのゴーサインが出された。そして、代償措置としての環境保全エリアが湿地の一部に造成された。

## 【右図】 当時の完成予想模型

■私たちは同年（1996）秋、計画地の中に2筆712平方メートルの土地を取得して「共有地トラスト」という手法でトラスト運動を開始した。中池見保全の賛同者を全国に募り、行政と事業者へ建設地の見直し、変更を求めたのである。

■時代の流れもあって99年秋に工事着工の10年延期が決定、さらに2002年春には計画中が発表された。その後、2003年暮れに計画地全域と造成した施設を敦賀市に寄付するとの表明が事業者からあり、正式受け渡しは04年度末と決まった。

これを受けて敦賀市では保全のために協議の場を設け、各方面から意見を求め、いい形で保全したいとの意向が表明されるに至った。

■工業団地計画を知ってから約15年、私たちは中池見湿地の素晴らしさと希少性をアピールすると共に全国の関連団体・研究者などと連携・協力を得て、学術調査や自然観察会などあらゆる啓発活動を実施してきた。感情論でなく客観的データや多くの人の価値評価に基づいた保存運動を目指したのである。



## 5. 今後の課題

消滅を免れた中池見湿地を未来にいい形で引き継ぐための模索と課題

【キーワード】 多様な水環境の保全

ラムサール条約登録地

■多様な水環境に依存する中池見湿地の保全には、いかに良好な水環境を保持するかにかかっている。

そのための大きな課題が現在2点ある。その一点は、山からの水を遮断していると思われる「国道8号バイパスの存在」と湿地内の水の動きを遮断している恐れがある「湿地内に建設された工事用仮設道路」の存在である。



■将来的には、中池見湿地をラムサール条約登録地に申請、未来へ継承することを目標としており、現市長もその意向を表明している。そのための準備と対応も求められている。

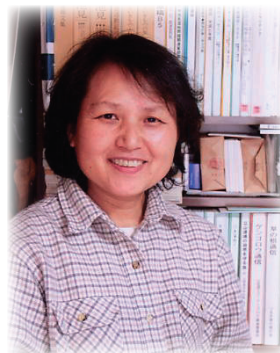
■もう一点は、放置されている湿地内の農道や橋と水路（江）の整備・補修などにかかる要員と資金の不足である。今後、敦賀市へ正式に寄付されれば当然議論されることであるが、現状では、私たちが主体的に保全活動を継続していく必要がある。

そのために昨年（2003）、NPO（特定非営利活動法人）「ウエットランド中池見」を設立、賛助会員を募っている。また、今まで活動の中心的役割を担ってきた「中池見湿地トラスト」も保有しているトラスト地管理のために当面、存続することとしている。

## プロフィール

笹木 千恵子

（ささき ちえこ）



1946年 福井県鯖江市生まれ

1990年 「ナチュラリスト敦賀 緑と水の会」発足、自然観察・保護部門担当

1996年 「中池見湿地トラスト」設立。代表幹事（複数制）

2003年 「特定非営利活動法人 ウエットランド中池見」設立。初代理事長に就任  
現在 上記団体に所属、現職。

その他、環境省自然公園指導員

（財）日本自然保護協会・自然観察指導員

福井県自然保護センター・ナチュラリストリーダーなど。

現住所 〒914-0047 福井県敦賀市東洋町6-37 TEL/FAX 0770-23-5003